

あわてて「住民サービスグーンとUP!」といいだしたが…

市民の批判に焦る維新

協定書にない

住民サービスの「拡充」「向上」

「特別区」の設計図＝協定書には、住民サービスの「拡充」「向上」の文字はありません。

特別区設置協定書(5ページ)

- 特別区の設置の際は、(略)住民サービスについては、その内容や水準を維持する
- 特別区の設置の日以後においても、(略)維持するよう努めるものとする

書きたくても書けなかったのです。

「特別区」は「三重苦」に

1,300億円(15年間)のコスト増

「特別区」を設置するムダなコストがある一方、税収は今の3分の1、国からの交付税も必要額より少ない「特別区」、お金が無く住民サービスは削減するしかありません。

中身もやり方も怪しげ

150万円の「効果」で住民サービス還元?

10年間・4人家族で約150万円の「財政効率化効果」?

このような効果があるなら、離島なみの「合同庁舎」にする必要性や大阪府からの追加支援を年20億円(10年間)する必要などありません。

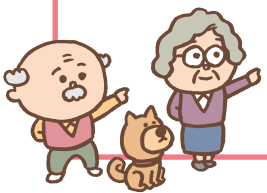


この数字の根拠は「嘉悦学園レポート」です。市民からの指摘で88カ所の誤りが判明し、都構想推進派の学者からも「大きな自治体を分割して確実に(歳出が)減るといのは証明されていない」と指摘されるしるものです。



大阪市の力を活かしてこそ住民サービスは充実!

「特別区」設置で1,300億円(15年間)のムダを止め、政令市・大阪市の大きな権限と財源を活かせば住民サービスは充実できます。巨大開発の浪費を二度とくり返さず、社会保障への投資をすればさらに成長します。いよいよこれからなのです。



大阪市今昔物語

12

天王寺動物園



天王寺動物園は1915年1月1日に開園し、2015年に開園100周年を迎えました。11ヘクタールの園内に180種1000点の動物がいます。

そのルーツは、大阪府博物館が1903年の内国勧業博覧会で使った動物を買入れ、これを大阪市が無償で譲り受けたもの。博物館より移動の際、ペリカンや熊などは大八車や牛車で運ばれ、サーカス出身の象は、木やり音頭の伴奏で10時間もかかって歩いてきたといえます(『大阪近代史話』)。

「博物館、美術館、図書館、動物園、水族館はその国、その都市の文化水準を表しています」とは中川哲男・元天王寺動物園園長の言葉。

誇るべき大阪市の文化を「大阪市廃止」で損ない、傷つけることは許されません。